

ホームヘルパーはじめませんか？
笑顔が大事！初心者でも大丈夫です

- **時間** 午前7時～午後10時で勤務可能な時間帯
※子育てや介護中の人も活躍中
- **時給** 1,500円～1,950円
※勤務時間帯、曜日、経験年数により異なる。各種諸手当あり。
- **資格** 介護職員初任者研修修了者(旧ホームヘルパー2級)・介護福祉士
※無資格の方はご相談ください。(資格取得助成制度有)
- **その他** 有給取得率80%
職場満足度88%
離職者平成28年度1名

【お問い合わせ】ホームヘルプセンター
TEL.932-1968

くらしと仕事の相談窓口

- 生活や仕事のことでお困りませんか？
様々な理由でお困りの方、不安のある方、
一人で悩まずお気軽にご相談ください。
一人ひとりの状況に応じた支援を行い、
解決に向けてサポートしていきます。ご本人はもちろん、ご家族からのご相談もお受けします。相談は無料となっております。まずは、お電話ください。
- **対象** 向日市在住の方
 - **相談日** 月～金曜日
(祝日、年末年始除く)
 - **相談時間** 午前10時～午後5時
 - **場所** 向日市福祉会館2階
- 【お問い合わせ】地域福祉課
TEL.932-1961



福祉サービス利用援助事業
「生活支援員」募集

- 認知症や知的・精神障がいのある方の自宅へ訪問し、日常生活に係る金銭管理(生活費の払戻しや各種支払い手続き)や郵便物の確認、整理等を担います。
- **活動頻度** 1～2時間/回(担当いただく利用者によって変動)
 - **時給** 860円/時間(別途事務費500円/時間の支給有)
- 【お問い合わせ】地域福祉課
TEL.932-1961

福祉教育・ボランティア
学習プログラム

市内の学校やPTA、自治会、事業所等が主催する学習会やイベント等に福祉に関する講師を派遣します。講師は障がい当事者、社協ボランティアセンター登録者及び市内の福祉関係者の方です。

- **プログラム例**
障がい当事者との交流と講話、点字、手話、車椅子、要約筆記等の体験、その他福祉・ボランティアに関すること
- **対象者** 向日市内の小、中、高等学校、PTA、子ども会、自治会、事業所等
- **申込** 随時受付しています。向日市社協HPより申込用紙を出力、記入のうえ向日市社協ボランティアセンターへお申し込みください。(FAX申込み可)
※FAXはお電話で着信の確認をしてください。
※必ず開催予定日の1か月前までにお申し込みください。

【お問い合わせ・お申し込み】
ボランティアセンター
TEL.075-932-1961 FAX.075-933-4425

介護スタッフを募集します

- デイサービスセンターで、高齢者を支えるやりがいのあるお仕事です！私たちと一緒に始めてみませんか？
- ① **ケアワーカー(介護職員)**
 - **時間** 8:30～18:15
※週2・3回働ける方、時間・曜日相談可、13:00～18:00に勤務できる方大歓迎
 - **時給** 1,200円～
 - **資格** 資格不問、経験のある方歓迎
 - ② **送迎ドライバー**
 - **時間** 8:20～、16:30～
(1日実働3h程度)
※朝夕で勤務可能な方に限る、週3日以上働ける方
 - **時給** 1,100円～
 - **資格** 普通自動車免許(A T限定可)
 - **休日** ①②シフト制(日曜、年末年始等)
 - **待遇** ①②交通費規定支給・労災保険加入・ユニフォーム貸与・健康診断・年次有給休暇・自転車・バイクでの通勤可、①のみ資格取得制度



【お問い合わせ】デイサービスセンター
TEL.931-3294

善意のご寄付
ありがとうございました

(平成29年8月29日～平成30年2月22日)

岩水 明	30,000円
東向日キリスト教会	5,000円
畠中 沙恵子	5,490円
京都新聞乙訓販売所連合会	20,000円
匿名2件	101,000円

7つのまちがい探し

「親指姫」

花の中から生まれた親指ほどの大きさの親指姫は、ヒキガエルに連れ去られたり、モグラに求婚されるが、ケガをしたツバメを看病し、一緒に花の国へ。

ヒキガエルに連れ去られたり、モグラに求婚される最後は王子と結婚するというアンデルセン童話。

- **応募方法**
はがき又はFAXに、①回答②氏名③住所④年齢⑤今回で特に関心があった記事(複数回答可)⑥「福祉パレット」を読まれた感想を書いてお送りください。正解者の中から抽選で5名に図書カードをプレゼントします。
- **締め切り** 平成30年4月19日(木)まで必着
- **送り先** 〒617-0002
向日市寺戸町西野辺1-7
向日市福祉会館内 総務課
FAX.933-4425

平成29年7月号の答え「桃太郎」
①おばさんのてぬぐいの結び目の大きさ②おじいさんの手③のぼりの桃印上下④桃太郎の口の形⑤狼の向き⑥犬のしっぽの大きさ⑦にわたりの有無



福祉パレット

ご近所福祉のまち 向日市をめざして

シニア世代 特技活かして交流拡大

社協主催のボランティア養成講座の受講者が立ち上げた、シニア世代の交流団体「むこうシニア」が、結成1周年を迎えました。大好評企画のハンコづくりや蕎麦打ち体験は、各メンバーの特技を活かして実施したものの。次年度は市民参加型講座の開講や老人ホーム訪問を計画するなど、活動の幅を広げています。代表の小林茂樹さんは「活発に意見交換し、新しいことに挑戦できるのが楽しい」と、笑顔で語ります。





将来の地域の担い手に 福祉教育の現場から

高齢化社会が進み、「ともに生きる」力を育む福祉教育に注目が集まっています。この度、向日市立勝山中学校では、全国社会福祉協議会の指定を受けて、地域学習と社会貢献活動（サービ斯拉ーニング）を通じた福祉教育モデル事業を実施しました。

1年生「ふるさと学習」の福祉グループ33人が「みんなが住みよい町づくり」を目指して、福祉を身近に感じるとともに、地域・人が学びあい、助け合い成長することの大切さを知る体験的な学びを深めました。

1学期は、地域の人への話の聞き方や訪問マナーなどを学習。2学期は、地区社協や民生委員に取材をして活動のイメージを膨らませ、実際に不動産会社やコンビニエンスストアの社会貢献活動、ボランティアの地域見守り活動などを現地調査。そして、11月に認知症サポーター活動として認知症声掛け訓練に挑戦。手作りチラシを作成し、地域の薬局やスーパー、飲食店などを訪問し、啓発活動を行いました。

活動の振り返りで生徒たちからは、「高齢者や認知症の方

だけにではなく、誰にでもやさしく声掛けをすることが大事だと気付いた」といった感想が多く寄せられました。

教頭の廣川伸一先生は、「これまでの福祉の勉強では、受け身のところがありました。今回は、フィールドワークで生徒が主体的に取り組めたことに大きな意義があると思います」と話します。また、学年主任の伊藤亜佐子先生も、「地域で自分に何ができるかを考える良い機会になりました。将来、自分が地域の担い手として支える立場になるという意識を持ってもらえたのでは」と目を細めます。

関係者からは、来年度以降も継続した取り組みを実施し、市内の他の中学校にも広げていくことを期待する声が挙がっています。

認知症サポーター活動で、生徒さんがチラシを持って店を訪問してくれました。取り組みの内容をきちんと自分たちの言葉で説明してくれて、やる気を感じましたし、偶然居合わせたお客さんも感心されていました。実は、私の父が認知症です。以前は厨房に立っていましたが、今はそれもできなくなりました。常々、私自身も地域の人たちとの助け合いが必要だと考えていたので、生徒さんが率先して啓発活動してくれるのは、とても心強いです。私たち大人も彼らから学び、地域の見守りに関わるきっかけにしたいですね。



協力店舗の声

餃子の一来一来店長
やまがわ のりゆき
彌三川 能行さん



各所で啓発活動



向日地区社協役員の声

会長 高橋 富美子さん

副会長・民生委員 小林 和子さん

私たちは、生徒さんのフィールドワークの段取りのお手伝いをしました。具体的には訪問先である店舗や事業所等に、事前に了解を得るために説明に伺ったり、訪問ルートを決めるなどしました。認知症サポーター活動にも同行し、地域の人たちと交流する姿を見て、頼もしく思いました。それと同時に、我々大人も、地域でともに生きていく意味を改めて考えるきっかけになりました。学習を通して、生徒のみなさんがより地域に関心を持ち、別のサロン活動などにも参加してくれればありがたいと思っています。

生徒の声

- 町に出てみると、高齢者を見守っている人がたくさんいることを知った。認知症の人だけでなく、困っている人がいたら、手を差し伸べる人になりたいと思った。
- 相手と目線を合わせたり、表情を確認して話せば、距離が縮まると感じた。相手の気持ちを考えて接することが大事だと思った。
- 周囲に高齢者の人が多く、自分の曾祖父も認知症。学習を通して話し方などを学んだので、これからは経験を活かして接してみたい。



笑顔でつなぐ地域福祉

社協のホームヘルプセンターでは、要介護・要支援の認定を受けた方を訪問し、利用者の日常生活をサポートしています。このシリーズでは、利用者の声を紹介していきます。

来てくれるのを待ってます

前川ミヨさん(96歳)



大正9年生まれの前川さん。故郷・鹿児島で高等学校まで過ごし、就職のため大阪に出てこられました。そこでご主人と出会い、結婚。ご主人の仕事の都合で向日市に移り住み、30年になります。平成20年にご主人が亡くなり、現在は一人暮らし。96歳になった今も、手押し車を利用して、ご自身で買い物や病院、銀行へ行くといひます。

元気の秘訣を尋ねると、「食べたいものを食べる」と前川さん。得意の煮物料理のほか、パスタや焼きそばもお手のものです。今年の正月には、息子さんたちが訪問し、雑煮を振舞いました。息子さんからは新しい眼鏡をプレゼントされ、「テレビ観るときは、これかけるねん」と嬉しそうに話します。

現在、要支援の認定を受け、週1回のヘルパー訪問を利用しています。部屋や風呂場、トイレの掃除が主な支援内容で、「部屋がいつも綺麗やから、気持ちええわ」と前川さん。また、元陸上部だったという前川さんはスポーツが好きで、相撲や野球の結果をヘルパーとの話題にすることもあり、「私が話しかけると、みんな手を止めて聞いてくれる。良い子ばかりやから、ついしゃべりたくなるのよ」と笑顔を見せてくれました。

「ヘルパーさんの名前、全員覚えてるのよ。孫みたいなもんやから。来てくれるのをいつも待ってるねん」

ヘルパーと利用者さんの理想的な関係が、ここにはありました。